

同窓連新年会、御嶽海をゲストに開催！

2月9日、@アルカディア市ヶ谷

上原昇（2組、関東同窓会会長）

2月9日（土）の東京はこの冬初めての雪が舞う冷たい日となった。

そんな中、長野県に籍を置く高校の東京同窓会連合会（東京同窓連）の新年会が今年も市ヶ谷の私学会館（アルカディア）で開催された。

筆者は関東同窓会を代表して、倉沢裕さん（69期、当会事務局長）、堤達さん（67期、関東同窓会会計長）らと共に出席した。

今回のアトラクションは、ゲストに大相撲の小結御嶽海（木曾郡上松町出身、木曾山林高校 0B、東洋大卒、出羽ノ海部屋）を呼んでのトークショーということもあり、47校、302名（来賓を含め）という大勢の参加者で、例年になく盛り上がった。

御嶽海を呼ぶにあたっては、実現まで多くの人の尽力と時間がかかったそうである。

皆さんご存知の通り、御嶽海は、（明治42年以降）長野県出身力士として初めて、昨年の名古屋場所で13勝2敗の成績で優勝を飾っている。先ごろの初場所では怪我で途中休場したものの、復帰して横綱白鵬を破り殊勲賞を受賞した。

（これも新記録とのこと）

当日、出席者の万雷の拍手と特製「御嶽海タオル」が打ち振られる中、179cm、170kgの堂々たる姿で入場。壇上でNHKの元相撲中継アナウンサーの刈屋富士雄さん（現NHK解説委員、静岡県出身）とのトークショーが始まる。

本人によると、小学校1年生から相撲を始め、泣きながら稽古に励んできた。

「御嶽海は稽古場では弱いが本場所では強い」と言われているが、それには訳がありそうだ。

刈屋さんによると、相撲はアマチュアとプロの世界は全く違うようで、アマは大会に合わせてピークを作るがプロは年中、稽古稽古で強くなる。御嶽海は学生相撲からプロに入門してまだ4年、アマ気質が抜けきっていない。そこを突き抜けたら、御嶽海は近い将来、大関、横綱に昇進すること間違いないそうであり、本人もその気十分と見た。

同じ長野県でも南信の木曾は遠い地ではあるが、「信濃の国」を歌えば同県人、木曾出身の御嶽海を大いに応援し、期待もしたくなる場所である。

北信、東信、中信、南信の仲間が一体となった新年会であった。

（2019年2月10日記）

【写真1：御嶽海と刈屋富士雄さんとのトークショー】



【写真2：同窓連の巢山会長（松本県ヶ丘OB）から御嶽海に花束贈呈】

